

ウォン・ウティナンさんの裁判を支える

署名とご寄付のお願い

甲府市立南西中学校3年生のウォン・ウティナンさんと母のロンサンさんに、2014年8月1日入国管理局は退去強制の裁決をしました。二人はタイに強制送還される危機に直面しています。ウティナンさんのお母さんはタイ人で超過滞在者でした。そのため、ウティナンさんは生まれた時から在留資格のない状態で生活してきました。彼は、2011年山梨県の新しい公共支援事業（外国籍不就学児童調査）で、就学していない子どもであることが判明し、それ以後県の事業とボランティアの学習支援を受け、2013年4月より甲府市立南西中学校の2年生に入学し、生まれて初めて公教育を受けられるようになったのです。中学校では、多くの友達が出来、演劇部やバスケットボール部に所属して、少年らしく暮らせるようになってきました。7年間も公教育を受けたことが無かったのですが、彼の頑張りや素晴らしく、高校の入試を受けられる学力を獲得しました。友だちも知識も日本で得てきたウティナンさんにとって、日本以外での生活は考えられません。

このままでは、暮らしたことも行ったこともなく、一人の友達もいないタイに送還されてしまいます。ウティナンさんは「裁判で闘ってでも日本に居たい」と決めています。2013年に成立した子どもの貧困対策の推進に関する法律は「第1条 この法律は、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう（後略）」と謳っています。私たち、ウティナンさんに関わってきた大人たちは、日本で生まれ育ち、懸命に努力してきたウティナンさんの未来（高校に通い日本で暮らしたい）が環境で左右されることのないよう強く願っています。ウォン・ウティナンさんの裁判を支える会を結成して、金銭面や嘆願書の署名活動等により彼の育ちを支えていきたいと思えます。時間はありませんが、署名は3000筆、募金は裁判費用として必要な150万円を目標に取り組んでまいります。どうか趣旨をご理解いただき、署名活動と募金へのご協力をお願いいたします。

ウォン・ウティナンさんの裁判を支える会

代表：竹本勝

呼びかけ人：小澤浩、宮本知子、安田哲、小松敬子、小野恭代、海老根悦子、市川恒臣、三井正人（以上、南西中学校保護者有志）、上野祐司、田中なぎさ、梅津誠、荻原真人、望月正実（以上、地域有志）、雨宮年江（保護司）、長坂香織（山梨県立大学看護学部准教授）、辻茂（元甲府市立南中学校校長）、木村輝三（こどもサポートやまなし事務局長）、青山ジェニー（タイ料理レストランロータス経営）、山崎俊二（社会福祉法人ぶどうの里理事長）、斉藤祐美（山梨外国人人権ネットワーク・オアシス）、新井玲子（元山梨県民生委員）小林裕彦（泉正寺住職）

事務局連絡先：甲府市愛宕町354-77 山崎方

電話：080-6787-7440 FAX：0553-44-2904

振込先口座：ウォン・ウティナンさんの裁判を支える会

ゆうちょ銀行 記号10880 番号11667781

または、郵便振替口座記号番号 00200-4-102482

ウティナンさんからのお願い

僕は2000年1月21日に、甲府で生まれました。お父さんの記憶はありません。「日本語」と「タイ語」があるということがわかったのは、たぶん4歳か5歳の頃だと思います。長野や名古屋にいたという記憶はあります。新幹線に乗った記憶もありますが、とにかくお母さんと一緒にあちらこちらに動いて生活していました。

お母さんの友達はほとんどタイ人の女の人でしたが、子どももいました。その子どもたちは日本人だったので、僕も自分は日本人だと思っていました。7歳か8歳の時に友だちが毎日どこかに行くので「どこに行くの」と聞いたことがあります。「学校に行く」と言われました。僕も学校に行きたいと思いましたが、まあいいかとも思いました。でも、学校というところは周りの子どもたちも行くので行ってみたいし、きっと良い所なんだと思っていました。

行く先々で僕の名前が変わりました。「サイファー」と呼ばれたり、「次郎ちゃん」と呼ばれたりしました。今の学校ではウォン・ウティナン（甲府市への出生届の記載名）です。家ではほとんど一人でテレビを見ていました。日本語はビデオやテレビで覚えました。字は買った物や看板、スーパーの表示になんて書いてあるか聞いて覚えました。長野にいるところに漫画を読むようになり、さらに字を覚えました。

10歳くらいの時に甲府に来てお母さんの友達の家に住まわせてもらいました。そこに子どもがいて今でも友達です。11歳になって子ども会で勉強を始めようという時に「君は国籍の手続きがしてないので、その手続きをします」と子ども会の人から言われました。また、「在留資格もないので帰されるかも知れない」とも言われました。僕は日本人だと思っていたので何のことも解りませんでした。12歳の4月からは、山梨学院大学が貸してくれた酒折の教室に週2～3日、愛宕町のオアシス子ども会に週1日通いました。1日も休みませんでした。問題ができたりするようになり、勉強が楽しくなりました。

学校に行かせてもらおうと甲府市の教育委員会に行くのは緊張しましたが、学校に通いたいので頑張ろうと思いました。中学校の1年生から入るか、2年生から入るか話がされて、早く働いてお母さんを楽にさせてあげたいと思ったので2年生から入れてもらうことにしました。

最初はあすなろ学級に午前中行って、南西中学校に移動して給食を食べ授業を受けることになりました。あすなろ学級には自転車を通いました。あすなろ学級は校外学習もあり、楽しかった。南西中学校ではバスケット部に入ったり、演劇部に入って発表したり、楽しいこと、厳しいこと、悲しいこと色々ありました。給食もしっかり食べるようになり僕は大きくなりました。本当に学校は面白いです。

2013年の夏ごろ初めて入管に出頭しました。2014年8月1日に入管に呼ばれてお母さんと一緒に行きました。そしたら急に「君とお母さんはタイに帰りなさい」と厳しく言われました。びっくりしたし、悲しかった。家に帰って泣きました。

僕はまだ子どもで、自分で働くこともできませんし、在留資格がないので学費を稼ぐこともできません。在留資格があれば、自分で働いてあまり皆さんの世話にならないで、働きながら定時制の高校に通うことができます。食事に困っていた時に助けてくれた山梨フードバンクの皆さんや、ずっと勉強を見てくれた先生たち、入学を認めてくれた教育委員会の人たち、校長先生や学校の先生たち、そして友だち、友だちのお母さんやお父さんのお世話になって大きくなってきました。お母さんはずっと僕を見守り育ててくれました。一緒にいてくれました。僕は健康保険にも入っていません。入れてもらえないのです。でも同級生のお父さんはお医者さんで、僕の具合が悪くなった時に無料で診ていただきました。そのことを最近知りました。本当に多くの人に手伝ってもらって育ててきたのです。僕は日本で生まれて育ったので日本のことしか知りません。急に帰れと言われても帰るところは日本です。納得できません。僕が日本で生まれたことは悪いことだったのでしょうか？僕は悔しいです。

どうか在留許可をください。日本に居させてください。裁判で僕たちを勝たせてください。僕はまだ、自分の力が足りません。どうか皆さん手を貸してください。僕は、僕を手助けしてくれたり勉強を見てくれた人たちに恩返しができるのであれば、高校に進学して、勉強を続け、立派な大人になり、真面目にしっかり働いて、僕のように困ってる人がいたら手助けできる人になることだと思います。お願いします。